地方創生

「第2次むかわ町まちづくり計画」について

むかわ町役場総合政策課

1　はじめに

今年で合併20周年の節目の年を迎えるむかわ町は、道央圏の南方に位置し、北海道の経済・文化の中心都市である札幌市や空の玄関の千歳市、海の玄関である苫小牧市にも近く、日高・十勝方面への交通の要衝にあります。

面積は、旧鵡川（むかわ）町が164.88㎢、旧穂別町が546.48㎢、２町合わせて711.36㎢であり、南北に細長い地形をしています。

北東に日高山脈を望み、南部は太平洋に面し、全国でも屈指の清流度を誇る一級河川鵡川が南北に縦走しており、山・川・海そして平地と多彩な自然環境に恵まれています。

まちづくりの普遍の理念として「人と自然が輝く清流と健康のまち」を掲げ、豊かな自然を大切にし、町民が健康に過ごしていくことを意識してまちづくりに取り組んでいます。

平成30年９月６日に発生した北海道胆振東部地震により本町は甚大な被害を受け、現在も復興に向けた取り組みを進めているところです。

令和７年３月には、このような大規模災害の発生に備え、災禍を受けたまちとして防災先導のまちづくりを進めようと、北海道では初となる「事前復興計画」を策定しました。

災害が発生した際にはいざというときの復旧・復興の手順をあらかじめ想定しておくこと、そして、町民とともにまちが目指す復興の姿を共有しながら、災害に強いまちづくりを進めています。

清流鵡川

2　第２次むかわ町まちづくり計画（総合計画）策定の背景と趣旨

平成27年12月に策定した「むかわ町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口の自然減、社会減とした課題に対して、対策を実施してきました。

本町の人口推移を見ると、市町村合併した平成18年以前から減少し続けています。

年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳以上65歳未満）は減少し、老年人口（65歳以上）は増加しています。高齢化率も36％を超え、全国や北海道と比較してもその割合は高くなっています。

人口減少と少子高齢化が進む現状に加え、北海道胆振東部地震や新型コロナウィルス感染症の影響においても、将来のまちづくりに深刻な影響を及ぼし、むかわ町を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした課題から「むかわ町まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「むかわ町復興計画」を内包した「第２次むかわ町まちづくり計画」を令和３年３月策定し、町政運営だけでなく、町民と行政が目標を共有し、協働してまちづくりを進めるための方針を示す手引きとして、まちづくりの理念、まちの将来像及びその実現に向けて取り組みを進めています。

第２次むかわ町まちづくり計画　表紙

3　まちの将来像のコンセプト

大きな爪痕を残した北海道胆振東部地震の震災などの災禍から「創造的復興・創生」を成し遂げていくために、まち全体でまちづくりへの思いを共有し、一度ふるさとを離れてもまた戻ってきてくれる魅力的なまちを目指し、まちの将来像を「人とつながる、笑顔でつながる､未来につながるまち　むかわ」として定め、まちづくりを進めています。

⑴　人とつながる

町内外の多様な人がつながる活力あるまちを創造するため、鵡川地区と穂別地区の両地区の住民のつながり､「交流人口」､「移住・定住人口」､「関係人口」の拡大、町民同士の交流やコミュニティの活性化など、人のネットワークを大切にするまちを目指します。

⑵　笑顔でつながる

産業や経済を活性化し笑顔でつながるまちを創造するため、創造的復興・創生のまちづくり、まちなかの再生、賑(にぎ)わいの創出、農林水産業や商工業の活気を取り戻し、魅力あふれるまちを目指します。

⑶　未来につながる

未来につながる持続可能なまちづくりを創造するため、豊かな自然を守り育て快適な生活環境をつくり、人材や地域資源、歴史・文化など貴重なまちの財産を次世代へ継承し、未来のまちづくりを担う子どもがいきいき育つまちを目指します。

むかわ町公認キャラクター　むかろん

4　基本方針・重点プロジェクト・最近の取り組み

●基本方針

基本方針１　【子育て・医療・福祉】　健康でいきいきとした暮らしを創る
～生涯安心して住める、親切であたたかいまちを目指します～

出産から子育てまで切れ目のない支援を行うとともに、子どもから高齢者まで健康づくりに取り組む環境を整備します。

また、生涯安心して暮らせるよう、医療や高齢者福祉、障がい者福祉を充実し、地域みんなで支える体制の整備に努めながら、地域福祉の推進を図り、親切であたたかいまちを目指します。

基本方針２　【安全・環境・暮らし】　安心・快適な生活環境を創る
～快適で住みやすく､笑顔があふれるまちを目指します～

震災からの復興に向けた取り組みや防災・減災対策を講じるほか､消防救急体制､防犯･交通安全を推進し、安心して暮らせる災害に強いまちづくりを進めます。

また、道路ネットワークや公共公通、上下水道、情報通信基盤など、暮らしや経済活動の基礎となる社会基盤の計画的な整備と維持管理を行うとともに、自然と共生する環境にやさしい循環型社会を構築し、快適で住みやすく、笑顔あふれるまちを目指します。

基本方針３　【産業・観光・交流】　むかわファンを増やし、賑わいと活力を創る
～まちの魅力や素材を活かし、元気で活力のあるまちを目指します～

本町の基幹産業である農林水産業の生産基盤や担い手対策などを強化し、災害に強い活力ある産業の育成と魅力化を図ります。

また、商工業の振興や起業支援などによる雇用創出を進めるとともに、恐竜化石をはじめとする地域資源に磨きをかけ、関係人口・交流人口の創出・拡大を図

ります。

さらに、震災の影響を大きく受けたまちなかの再生を図りながら、まちの魅力や素材を活かし、元気で活力のあるまちを目指します。

基本方針４　【学び・文化・スポーツ】　楽しく学び、まちを支える人を創る
～郷土を学び､豊かな心と個性を育むまちを目指します～

将来においても魅力あるまちとして発展していくためには、次世代を担う子どもたちや各活動の担い手を育成しながら、確かな学力、豊かな心を育む教育を推進します。

また、町民の主体的な生きがいづくりや健康づくりにつながる生涯学習や生涯スポーツの環境づくりを進めます。

さらに、まちの歴史･文化を知り守り育てることで、郷土を学び、豊かな個性を育むまちを目指します。

基本方針５　【コミュニティ・行政経営】　みんなで支え合い、明るい未来を創る
～町民みんなが主役となり、明るい未来と希望のあるまちを目指します～

町民が主役の協働のまちづくりや男女が平等で一人ひとりの人権が守られる社会の実現に加え、地域の結びつきを強め、地域コミュニティのさらなる充実と活性化に努めます。

また、効率的で戦略性をもった行財政運営により行政サービスの安定的な提供に努め､町民が主役となり、明るい未来と希望のあるまちを目指します。

●重点プロジェクト

【重点プロジェクト１：地方創生プロジェクト】

災害や感染症を契機とした地方移住への関心の高まりを本町への人の流れにつなげるため、３つの展開方針に沿った取り組みを推進します。

このプロジェクトにより、新たな時代に適応した環境整備を進め、人口減少対策の充実を図りながら、多様化する町民ニーズに応じた地方創生の実現を目指します。

＜展開方針＞

○切れ目のない子育て環境の充実
○まちの将来を担う人材育成の強化
○恐竜ワールド構想の推進

〈最近の取り組み〉

【むかわ町事前復興計画策定】

日本海溝・千島海溝周辺海溝型巨大地震による大規模被災を想定し、災害発生後、迅速かつ着実に復興できるよう、復興の基本方針、復興手順や体制などを平時から町民・事業者・行政で共有するための計画として、むかわ町事前復興計画を策定しました。

日本海溝・千島海溝周辺海溝型巨大地震が発生した場合に、速やかな生活再建と創造的復興を果たす姿をイメージする「復興まちづくり計画」と、日常のまちづくりの中で事前に取り組むことにより被害の軽減に資する「事前復興準備計画」により構成されており、減災や被災後の復興まちづくり計画の円滑化や、復興始動期から復興・創生期における取り組みを明確化し推進します。

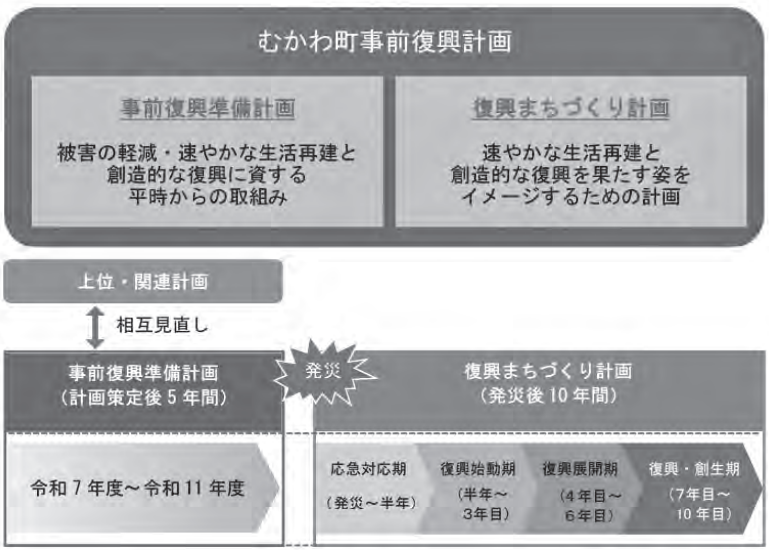
【重点プロジェクト２：まちなか再生プロジェクト】

鵡川地区及び穂別地区の中心市街地が抱える地域課題の解決に向け、その方向性を示した「むかわ町まちなか再生基本構想」に基づく３つの展開方針に沿った取り組みを推進します。

このプロジェクトにより、持続的なまちなか再生を進め、両地区の連携強化を図ることによりまち全体の活性化を目指します。

＜展開方針＞

○鵡川市街地を中心とするまちなか再生
○穂別市街地を中心とするまちなか再生
○「むかわまるごとフィールド」に向けたまちづくり



むかわ町事前復興計画

〈最近の取り組み〉

【むかわ町復興拠点施設等整備事業Ⅰ（イチ）】

震災によって失われた穂別地区市街地の賑わいを取り戻すため、「むかわ町復興拠点施設等整備事業Ⅰ」を進めています。

令和７年４月にオープンした「新･樹海温泉ほべつ」は地域住民も来町者も共に過ごすことのできる空間、異文化・多世代交流空間づくりを目指し、温浴施設・飲食施設を整備して住民の健康増進、交流の場として利用されています。

また、全国的に注目されている「カムイサウルス・ジャポニクス（むかわ竜）」を展示する博物館に隣接することで、互いの施設の相乗効果を期待できるとともに、地域の「核」として象徴的なランドマークとなり、来町者の滞在時間を延ばすだけではなく、商店街への人の環流効果により、地域全体への賑わいと、人とのつながりの場となっています。

令和８年３月の完成を予定している新たな博物館は、当初、穂別地区で発掘された全長約８ｍある国内最大の全身骨格化石「むかわ竜」の展示が既存博物館では手狭であったことから、「むかわ竜」全身骨格化石の常設展示ができず化石資源の最大の魅力を発揮しきれていないことが課題でした。課題解決のため博物館のリニューアル構想を進めておりましたが、北海道胆振東部地震が発生し、甚大な被害からの復旧・復興が最優先事項となり、一度白紙となりました。

その後、新たな博物館設置計画が再スタートし、これまで常設展示できていない「むかわ竜」全身骨格化石や全身骨格レプリカなどに加えて、これまでの学術研究をベースに地元産化石を中心とした展示内容としながら、多言語対応や、展示物の配置・場所・高さを配慮するなど、多くの来館者が楽しめる施設として整備を進めています。

【重点プロジェクト３：タウンプロモーション推進プロジェクト】

本町ならではの強みや特徴を明確にした上で、効果的なプロモーションの実施による、まち全体の価値（ブランド）の向上に向け、３つの展開方針に沿った取り組みを推進します。

このプロジェクトにより、まちの認知度を高めるとともに、むかわブランドを確立し町民のシビックプライド（まちに対する町民の誇り）の醸成を目指します。

＜展開方針＞

○まちの認知度向上とむかわブランドの確立

○戦略的・継続的な情報発信

○町民の誇りや愛着心の醸成

新たな博物館と新・樹海温泉ほべつ（イメージ図）

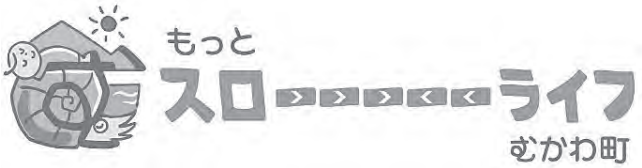
〈最近の取り組み〉

【タウンプロモーション事業】

職員・町民らが参加してタウンプロモーションの取り組みを進めるキャッチコピー作戦会議を開催し、町をPRするキャッチコピーを「もっとスローーーーーライフ」に決定しました。

ロゴマークには、キャッチコピーの隣に子どもやアンモナイトなどのイラストが描かれ、その中にひらがなの「む」が当てはめられており、豊かな自然と本町の特徴が表された作品となっています。

完成したロゴマークは、タウンプロモーション関連のチラシ・ポスター・パンフレット等の各種媒体で広く使用し、まちのPR活動を進めます。



タウンプロモーションキャッチコピー　ロゴマーク

5　おわりに

「第２次むかわ町まちづくり計画」前期基本計画が今年度で終了することから、現在、後期基本計画の策定作業を進めています。

「防災先導のまちづくり」、「まちなかの再生」だけでなく、令和６年度に認定登録された「むかわ町かわまちづくり計画」の推進、専門的な知見やノウハウを有する民間人材活用、デジタル技術の活用、政府が新たに創設した「地方創生伴走支援制度」などを活かしながら、これからも住み続けたくなるまちづくりを目指します。